

合格体験記

京都大学 理学部理学科

43期 渡嘉敷 直志

僕はこの春に京都大学に合格できました。今回の僕の経験を振り返って、特に大切だったと思うことを書きたいと思うので、それが皆さんの何らかの足しになればいいと思います。

まず、最初に、大学受験との向き合い方について。僕が大切だと思うことは、「友達と支えあうこと」です。受験は最終的には自分ひとりの力で受けることとなりますが、その受験に向かうまでの間は個人戦ではありません。一人で頑張ろうとすると、不安になったりして最後まで頑張り切ることが難しいと思います。さらに、友達とのおしゃべりをする際に、お互いに問題を出し合ったりすることで、自分では気付けなかった自分の弱点に気付いたりもします。ただ、ここで「支え合い」と「馴れ合い」の区別をできるようにしてください。「友達もやってないから自分もやらなくていい」ではなく、「友達が頑張っているから自分も頑張ろう」というような関係になれるようにしてください。確かに友達とのおしゃべりは楽しく、リフレッシュにもなり完全に0にするのは良くないと思うので、適度にふざけ合い、そして互いに支え合って高め合える友達を見つけて頑張ってください。

次に勉強法についてです。まずは、自分の志望校の配点の特徴、難易度を完全に調べ上げてください。1次試験と個別試験の配点や、個別試験の難易度は大学によってかなり異なるので、それを知らないと何も始まりません。自分の志望校に合わせた勉強をするのが一番の近道です。ここで、受験勉強において意識したことを書きたいと思います。それは勉強計画を立てることです。まず、僕は大きな勉強計画を立てました。何月までにどの問題集を終わらせるというような感じです。高2の10月から高3の2月までの計画を大まかに立てました。この時、明確にどの問題集をやるのかなどまで決めておくと、ペースを考えられるのでおすすめです。そして、1日1日の小さな勉強計画です。ここで、もちろん何時から何時まではどの科目をやって、というように時間単位で決めてもいいと思いますが、僕は1日全体で、各科目の量を定める方が合っていました。時間で決めると、対して進んでいないのに十分にやった気がしたりしてしまうので、その日のノルマっていう感じでやる方が確実に量はこなせるのでいいと思いました。次に問題集の使い方ですが、僕はわからない問題は5分から10分は考えて、その後すぐに答えを見て、とにかく触れる問題を多くすることを意識していました。

最後に、僕が一番大切だと思うことを書きます。それは、受験当日に「自分はちゃんとやってきた」と思えるだけの勉強をすることです。当日までに自分ができる限りをしっかりとやってきたのならば本番もリラックスして自分の実力を出せると思います。皆さんが志望校に合格できることを期待しています。頑張ってください！